

日本なし(品種：幸水)

千葉農林振興センター

1 地区名(集団名)

市原市町田地区(町田梨ちばエコチャレンジ生産者組合)

2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 22戸
- (2) 栽培面積 777 a
- (3) 収穫量又は出荷量 154,000kg (1,982kg/10a)
- (4) 出荷先又は販売方法 直売、市場出荷

3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	24回	26回
化学肥料(窒素分量)	11.6kg/10a	13kg/10a (草生栽培)

4 事例のあらまし

町田梨ちばエコチャレンジ生産者組合は、市原市農業振興協会果樹部梨部会及びJA市原市梨共同選果部に属し、農地・水・環境保全向上対策の先進的営農活動の一環として、日本なしのちばエコ農産物認証に産地として取り組みました。日本なしでちばエコ農産物認証を受けるためには、病害虫に対する観察眼が高いことに加え、農薬に関する高い知識が求められます。町田梨ちばエコチャレンジ生産者組合では、産地として認証にチャレンジするため、生産者自らが病害虫予察隊を結成して、緻密な病害虫発生情報を組合員に伝達するとともに、ちばエコチャレンジ防除暦を関係機関と連携して作成し、農薬散布成分の削減に努めました。

5 背景・動機

市原市は県内で二番目に古い歴史ある日本なしの産地です(江戸時代文政7年=1824年の古文書に千種村白塚のなしの記述があります)。温暖な気候と市内中央を流れる養老川沿いの肥沃な砂質土壌で、日本なし栽培に好条件の自然環境が整っています。現在は「幸水の早期、大玉出荷産地」として東京都中央卸売市場で有利販売されています。市原市農業振興協会果樹部梨部会の会員は113名、栽培面積は約70haとなっています。産地では、早くから性フェロモンの導入を前提とした低農薬栽培を試みてきました。性フェロモン剤導入の経緯としては、平成13年に町田支部の3haの梨園で防除モデル園を設置し、産地として防除効果を確認しました。平成15年、当時のJA市原市梨共同選果部会長の呼び掛けで産地面積の約85%で性フェロモンの設置が進み、平成17年から現在に至るまで梨園全面積で性フェロモンが設置されています。そのような中、その取り組みをアピールす

るため平成18年には生産者の95%にあたる107名がエコファーマーの認定を受けました。

平成19年からは、町田支部で農地・水・環境保全向上対策の中の先進的営農活動の一環として、日本なしでちばエコ農産物の認証に向けて取り組みをはじめました。



生産者による予察隊の活動



病害虫予察情報の掲示

6 栽培方法

(1) 土づくり

毎年、家畜ふんたい肥を投入していますが、土壌分析の結果、園における加里成分の蓄積が認められたため、本年度は投入しませんでした。今後も、土壌診断に基づき投入量を決定していく予定です。

(2) 施肥

有機質肥料を中心に施肥しました。また、基肥の一部は圧縮空気噴射式土壌改良機（商品名：グロースガン）を用いて深層に施肥を行うとともに圧縮空気を送り、土壌物理性の改善にも努めました。また分肥を行うことにより硝酸態窒素の流亡の軽減を図りました。

(3) 病害虫防除

○予察隊の結成

生産者8名で予察隊を組織し、梨の生育期間中10日毎に病害虫発生の子察活動を実施しました。予察結果は、梨園に隣接した倉庫に掲示して、組合員に迅速に情報伝達し、各人が効率的な薬剂防除に役立てました。

○梨ナビゲーションシステムの利用

梨園に温湿度計を設置し、そのデータを農林総合研究センターが開発した梨ナビゲーションシステムに入力することにより、黒星病の発生予測を行い、殺菌剂の効果的な散布タイミングを見極めました。

○ちばエコチャレンジ防除暦の作成

関係機関やメーカーの協力のもと、ちばエコチャレンジ防除暦（化学合成農薬使用成分数26成分以内）を毎年作成しています。この防除暦を農薬散布の目安としてちばエコ取得に産地としてチャレンジしました。

ア 栽培管理

作業名	実施年月日
前作収穫終了	平成19年 8月31日
せん定	12月～平成20年 3月
人工授粉	平成20年 4月10～21日
摘果	5月 1～22日
ジベレリン処理	5月14～24日
新梢管理	5月下旬～ 6月下旬
収穫開始	8月 1日
収穫終了	8月20日

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10 a 当たり)

使用銘柄 (N:P:K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
ダイヤアミノ (10:6:5)	平成19年 8月25日	30kg	3kg	2.1kg
油かす (5:2:1)	9月28日	80kg	4kg	
有機入り市原梨専用 (7:4:3)	11月22日	120kg	8.4kg	4.6kg
有機アグレット梨専用 (7:7:5)	平成20年 3月 1日	100kg	7kg	2.8kg
ダイヤアミノ (10:6:5)	5月 8日	30kg	3kg	2.1kg
油かす (5:2:1)	6月11日	100kg	5kg	
合 計			30.4kg	11.6kg

(イ) 病虫害・雑草防除等

使用農薬	対象病虫害	実施年月日
デランフロアブル	黒星病	平成19年11月 4日
〃	〃	11月16日
トップジンMペースト	胴枯病	12月 1日
※ハーベストオイル	ハダニ類	平成20年 3月13日
※コンフューザーN	モモシクイガ、チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、リンゴコカクモンハマキ、ナシヒメシクイ	3月19日
マネージDF	黒星病・赤星病	4月 3日
チオノックフロアブル	黒星病	4月 3日
ダイアジノン水和剤34	アブラムシ類	4月 3日
サニパー	黒星病・疫病	4月14日

使用農薬	対象病虫害	実施年月日
スコア顆粒水和剤	黒星病・赤星病	4月22日
デランフロアブル	黒星病・芯腐れ症（胴枯病菌）	4月22日
バリアード顆粒水和剤	アブラムシ類	4月22日
デランフロアブル	黒星病・芯腐れ症（胴枯病菌）	5月8日
ベルコートフロアブル	黒星病・輪紋病	5月16日
ジベレリン協和ペースト	果実肥大促進	5月18日
キノンドーフロアブル	黒星病・輪紋病	5月23日
ハチハチフロアブル	ニセナシサビダニ	5月23日
※コンフューザーN	モモシンクイガ、チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、リンゴコカクモンハマキ、ナシヒメシンクイ	6月1日
※ゼンターリ顆粒水和剤	ハマキムシ類	6月4日
フロンサイドSC	黒星病・輪紋病	6月11日
※ハマキコンN	リンゴコカクモンハマキ	6月11日
ストロビードライフロアブル	輪紋病・黒星病・炭疽病	6月18日
オーソサイド水和剤80	黒星病・輪紋病	6月18日
モスピラン水溶剤	アブラムシ類	6月18日
インダーフロアブル	黒星病	6月28日
ベルコートフロアブル	黒星病・輪紋病	6月28日
ナリアWDG	黒星病・輪紋病	7月14日
フェニックス顆粒水和剤	ハマキムシ類	7月23日
※コンフューザーN	モモシンクイガ、チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、リンゴコカクモンハマキ、ナシヒメシンクイ	7月23日
※ハマキコンN	リンゴコカクモンハマキ	7月23日

※印は、「化学合成農薬に含めない農薬」

7 今後の展望等

日本なしでの「ちばエコ農産物」の認証はハードルが高く、毎年の気象条件によって取得できなくなることも予想されます。毎年、安定的に化学合成農薬成分数を削減するためには、病虫害に対する予察情報の精度を更に高める必要があります。また園内の微気象を把握して、梨ナビゲーションシステムを活用することや、効率的な農薬使用方法の基礎となる各農薬特性（防除効果や残効期間等）を生産者自身の観察や関係機関及びメーカーの協力のもと、毎年見極めていく必要があります。

販売面においては、各直売所で生産者自らが積極的に取り組んでいる減農薬の取り組みを消費者へ伝えることにより、「安全・安心で消費者に選ばれる梨」を目指します。